



本日はよくお参り下さいました

今年最後の月となりました。11月25日に天神社新嘗祭が行われました。同日、氏子会の雛子方の皆さんによる祭りばやしのお披露目がありました。29日は横浜において、神社庁設立70周年の記念式典が行われ、当社の禰宜が神話の語り部を行いました。800人以上の参加者の前で、この横須賀ゆかりの神話、ヤマトタケルのお話しをしました。ヤマトタケルの妻オトタチバナヒメは、荒れ狂う海を鎮めるために身を投げて神の怒りを鎮めます。このお話の舞台が走水です。走水に程近い横須賀大津高校の校歌にも、「タチバナヒメの玉小櫛、流れて着いた走水」という歌詞があります。神話の舞台が横須賀にあるということが、たくさんの方に知って頂けるよい機会だったと思います。今年も一年間ありがとうございました。権禰宜道子



12月

1日・15日 月次祭(つきなみさい) 皇室の弥栄と国家安泰、氏子崇敬者並に社会の幸福と平和を祈ります。

5日 酉の市 久里浜天神社では毎年12月5日に酉の市を行います。この日から神社特製の熊手や来年の神棚のおふだをお求め頂けます。夜店も賑やかに出店します。



7日 大雪(たいせつ) いよいよ冬将軍の到来が感じられます。22日 冬至(とうじ) 昼が一年で一番短く夜が一番長い日。冬至に柚子湯に入ると無病息災でいられます。

23日 天長祭(天皇誕生日) 今上陛下の御誕生日であり、国民の祝日です。天皇陛下の御誕生日は、古くから天長節とよばれ、国民はこぞって慶祝の気持ちを表してきました。現在も宮中や全国の神社では、天長祭が行われています。

25日 終い天神(しまいてんじん) 御祭神菅原道真公の誕生日6月25日、薨去(こうきょ)の2月25日に因み毎月25日は、天神さまの御縁日です。特に12月25日は、終い天神(1月25日は初天神)と呼ばれます。

31日 大祓(おおはらえ) 12月31日の大晦日には、一年の間に受けた罪穢(つみけがれ)を祓うために、大祓が宮中ならびに全国の神社で執り行われます。*一月号はお休みです

天神さまの豆知識

―門松のはなし―

◎歳神が留まる場所だった門松

古代日本人は、神を招くために神聖な木を立て、神が降りるときを目印に、さらには神の留まる場所としました。正月飾りのひとつ、門松も、歳神の依り代として立てられたものです。一般に家の角に立てるのは、門が神々の集まる場所と考えられていたためで、このように門松は単なる飾り物ではなく、神聖な歳神の依り代でした。

◎門松の歴史

古代門松の歴史は古く、平安時代末期にはすでに貴族の家の門前に飾られていたと伝えられています。当初は長寿の象徴であり、「神を待つ」という意味も込められた松で作られるのが普通でしたが、鎌倉時代末期から室町時代にかけて、力強い生命力を表すとされた竹が加えられ、江戸時代になると松と同じく長寿の象徴とされた梅が加えられました。

◎いつ作る?

門松をつくるための木を切るのは、十二月十三日、年末準備の事始めの日とすると多く、三十日までには立て終えるのが一般的でした。三十一日に立てるのは、

一夜飾りといい、神に対して誠意がないとみなされ忌み嫌われました。

参考文献『神道とよきたり事典』

茂木貞純監修 二〇一四年(株)PH

P研究所発行 『現代

こよみ読み

解き事典』

柏書房発行



今月の言葉

『神の御恵み、疑い
思し召すべからず候』

西行

神の恵みは誰にも与えられる。このことを疑ってはならない。質素な暮らしをおくった旅僧・西行は、神の恵みを感じてこのように綴った。誰でも人生の中で、つらいこと、理不尽なことに遭遇するときがあるだろう。そのとき、神さまを疑うかもしれない。だが、誰もが同じ、自然の中に身を置き、生きている。陽光、雨、風、自然の恵みは同じである。参考文献『神道のことば』武光誠監修 河出書房発行